秋がおすすめ

自然
歴史

№20　宇治の歴史街道
古代から近世へ　紅葉の道を歩く

おすすめポイント

巨椋池があった頃、池を見ながら奈良から京都、そして北陸方面へつながる古道として、古代から中世、近世へと幾多の貴族、武士、そして商人たちが通ったことでしょう。また、文学の世界では、物語上の登場人物たちも牛車や馬で通った道でもあります。街角に残る石仏や格子窓の家並みが、今にそれを伝えてくれます。

古代この地を支配したであろう人物が眠る二子塚古墳、飛鳥の豊浦寺の瓦を焼いた隼上り瓦窯跡、そして宇治陵、萬福寺、宇治上神社、宇治橋と古代から近世への歴史を体感できる道です。まだまだ新しい発見がありそうな街道を、昔を偲んで歩いてみましょう。

JR木幡駅 → 総拝所 宇治陵 → 能化院 → 二子塚古墳 → 許波多神社 → 萬福寺 → 黄檗公園 → JR宇治駅 ← 宇治橋 ← 宇治上神社 ← 仏徳山 ← 明星町 ← 安養寺 ← 瓦窯跡 隼上り

ここに注目

●街道から安養寺

寺の前を通る道は古北陸道と呼ばれ、この集落は近世、近代を通じて大鳳寺村と呼ばれた所である。安養寺は天台宗の古寺を浄土宗に改められ、１６８５（貞享２）年に現在地に移された。小野篁作と伝わる延命地蔵が知られる。

●許波多神社（五ケ庄）参道

萬福寺後方の丘陵“柳山”に柳大明神として祀られていたが、1876（明治９）年 陸軍火薬庫の増設により、御旅所であった現在の地に移った。向拝の蟇股には社殿に因んで柳と馬の彫刻がある。